

「持続可能な開発目標(SDGs)」:「関連諸機関との連携の中で」

SDGs(持続可能な開発目標)とは、国際社会全体の開発目標として、2015年9月の国連総会において全会一致で採択されたものです。それは「誰一人取り残されない」社会の実現を目指し、各国が経済・社会・環境・をめぐる広範な課題に、統合的に取り組むという壮大な目標です。その実現のために、すべての関係者(先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等)の役割を重視して、「世界を変えるための17の目標」を掲げております。目標1、貧困をなくそう、目標2、飢餓をゼロに、目標3、すべての人に健康と福祉を、と続きます。

さて、この国際社会全体が人類の平和と幸福のために目指している大きな目標と、NPO 法人やまなしライフサポートが創設以来掲げて来ている活動目標:「路上生活者や生活困窮者の自立支援のために、地域における人的つながりを通して、何人も社会において孤立せず、健康で文化的な最低限の生活を営むことのできる社会の実現に寄与する」、ここには大きな共通点があるに気付かされます。それは誰一人取り残されない、孤立してしまわない、温かいつながりのある社会の実現を目指していることです。

当法人の活動目標の中には、その理念を実行するための手段として、「地域の人的なつながりを通して」という文言があります。これは個々の人間的なつながりだけを意味するのではなく、公的な機関や民間の関連団体と密接に連携しながら、それぞれの特徴を生かして効果的な支援活動に取

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司
り組むことを意味しています。その結果として得られた特筆すべき実践例の一部を、今回のニュースレターに特集としてご報告できることに感謝しております。同時に、このような官民の枠を超えた協力によって得られた活動記録の中に、現在日本が直面している憂慮すべき社会情勢、格差の拡大や福祉政策の弱体化が顕著に反映されてきております。

一時生活支援事業は当法人の活動の中で最も多くの関連機関と連携しながら、限られた時間の中で結果を出さねばならない重要な仕事であります。職と住居を失いホームレス化した方々がそこからどのようにして出口を見つけ出し、新しい道を切り拓いていくか、その手助けを当事者と共にする作業です。問題解決のために最も多くの時間と労力、忍耐を必要とする共同作業です。

一時生活支援として、当法人の緊急一時宿泊施設ライフ荘を利用する方々の状況が、2016年度と17年度において以前には考えられない2つの逆転現象が数値として現れております。その一つが利用者が低年齢化し、20代~40代の利用者の数が全体の60%に達していることです。もう一つは、就労支援によって出口を見出した人の人数が以前とは逆に、生活保護受給になった人の数を大幅に上回っていることです。近くに肉親もいない、住居も保証人もいない上に、犯罪歴もあるという若者がいかに多いことか、そして彼らへの就労支援がいかに厳しいかを実感しております。

2017年度の主な活動実績

2017年4月~2018年3月 人数は延べ数

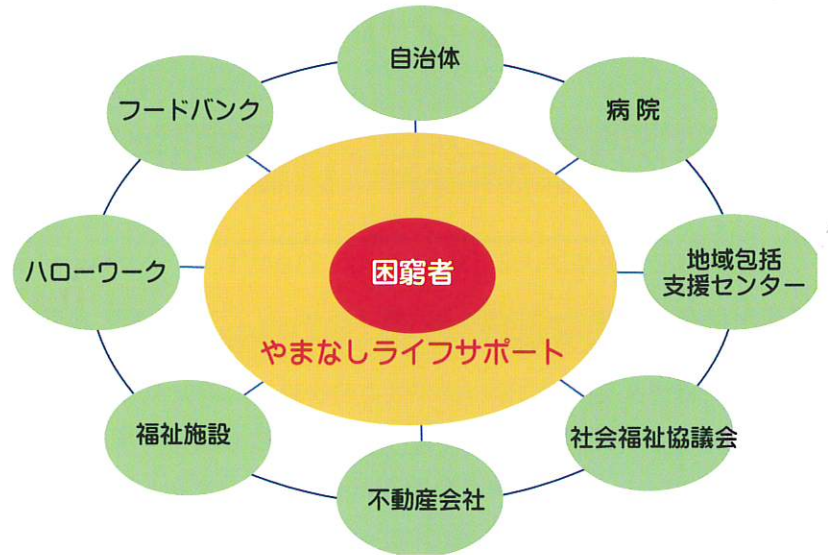
炊出し(弁当配布含む)	1,618名(50回)	緊急一時宿泊(ライフ荘)	64名(648泊)
健康相談	564名(102回)	生活保護申請	25名(受給実績22名)
路上生活者面談	356名(306回)	就労相談、就労サポート	210名(就労実績30名)
生保・年金受給者面談	263名(188回)	見守りパトロール	254名(109回)

特集 他団体との連携

やまなしライフサポートでは生活困窮者支援のための活動を、行政・民間を問わず多くの団体との連携のもとに進めています。

困窮に至った原因が複雑化し、自立に向けたニーズも多岐にわたっているため、それぞれの団体の専門性を活かして支援計画を作成し実行しています。

他団体との連携の実態を、最近の事例を交えながらいくつかご紹介します。



地方自治体 (地方自治体の生活困窮者自立支援相談窓口)

今年度は、県内5市(甲府市、笛吹市、山梨市、中央市、都留市)から生活困窮者自立支援事業の一部を受託しています。甲府市では困窮者への訪問支援と緊急一時宿泊(ライフ荘)を、他の4市からは緊急一時宿泊を受けています。

甲府市の訪問支援事業では、申請手続き(生活保護、年金受給等)、通院同行、アパート探し、就労相談などの支援の他、ひきこもりの方の見守り等も行っています。ライフ荘は、昨年度64名の方で648泊の利用がありました。



甲府市役所

病院 (無料低額診療事業を実施している医療機関)

収入や蓄えがなく困窮されている人が、必要な医療を制限されることなく無料又は低額な料金を診療を行うのが無料低額診療事業です。

当法人の支援につながった方には治療が必要と判断される方が少なくありません。高血圧、糖尿病、腰痛、うつ病等の例が多く、お金がなくて受診できない方や、治療を中断してしまった方々が大半です。失業中の方でも治療を受けてからでないと就職活動ができない方もおられます。

当法人は甲府共立病院(診療所)、石和共立病院、住吉病院等と連携しており、病院の医療ソーシャルワーカーと相談しながら事業の利用に結びつけています。



石和共立病院

Tさん(68歳男性)の事例

万引きで逮捕され、路上生活を続けていたこともあり、それまで受給していた生活保護が廃止となった。

胃痛を訴え所持金もなかったため、無料低額診療事業を利用して石和共立病院を受診し検査と治療を始めた。病院の相談員より当法人に連絡があり、再度生活保護を受けて治療を継続したいので支援してほしい、との本人の要望を伝えられた。

本人に会うと重篤な状態と感じられたため、甲府共立診療所に受診同行した。その結果入院が必要となったが、ベッドが空いておらず10日後の入院となり、栄養剤を処方され路上に帰った。

ところが、再度胃痛が激しくなり、自力で石和共立病院に行き、甲府共立病院入院までの間入院させてもらおう配慮をいただいた。

その後、再度生活保護を申請後甲府共立病院に入院し、胃がんの疑いがあることが判明した。退院の目途は立っていないが、入院できて安心したとTさんは話している。

病気にかかった路上生活者を医療機関受診につなげる支援には、無料低額診療事業がなくてはならないし、生活保護(医療扶助)も生命に関わる重要な役割を果たしていることを実感できた。(宮坂看護師記)

地域包括支援センター

当法人の支援でアパート生活に移った路上生活者や、炊出しの利用者には独居高齢者の方が多くを占めます。当法人の看護師による健康相談や見守り訪問で、身体面や認知機能面で問題を発見した場合、担当地区の地域包括支援センターにつながり、訪問や通所での介護保険サービスの利用に結びつけています。

相互連携を深めるために、当法人と甲府市の地域包括支援センター9カ所の職員による交流勉強会も開催しています。

Mさん(75歳男性)の事例

アパート契約更新時に保証人を立てられず強制退去させられました。年金の入った財布を落としたこともあり、絶望して電車の踏切に立ったほどでした。

ライフ荘での一時生活支援を経て、当法人紹介の保証人不要のアパートに入居しました。

しかしその後、食欲不振を訴えたため病院受診の支援をしたところ胃がんと判明。無事手術は成功したものの、アパート暮らしは困難なことから、当法人の看護師が担当地区の地域包括支援センターに相談しました。

地域包括の担当者はMさんと何度も面会し、今後の生活についての相談をしてくださいました。その結果養護老人ホームへの申込みを決定。入所手続きや引越し支援もしていただき、現在は落ち着いて生活しておられます。

やまなしライフサポートと連携してよかったこと

(甲府市東包括支援センター)

* ご飯が食べられなくなってしまった方を炊出しへ紹介させてもらいました。看護師に健康相談にのってもらい、受診につながることもできました。現在も炊出しに通いながら一人での生活を継続することができています。

* 炊出しに通っていた方が通えなくなり、安否確認を兼ねてお弁当を届けてくれたため助かりました。

* 当包括のエリアは炊出し会場に行きやすいこともあり、経済的な理由で食事が十分にできていない方に紹介しています。また、炊出し会場が交流の場・居場所にもなっています。

ハローワーク

地方自治体が生活困窮者への支援を開始した場合、ご本人に第一に確認することは、就業できる状態(意欲及び能力)にあるかどうかです。住まいのない方で就業を希望する利用者には、「一時生活支援事業(ライフ荘、2週間以内)」期間内にいかに適切な就業機会を提供するかがポイントとなります。

自治体の生活困窮者対応窓口の就労支援員は、まず連携する管轄ハローワークに繋がります。求人案件とうまくマッチングできれば、求人企業宛の紹介状が発行されますので、それを基に当法人で履歴書の作成(写真撮影)、面接の模擬練習、面接時用の携帯電話貸与、面接用衣服の提供等のサポートを行います。

特に、市役所内に設置されている甲府市「ワークプラザ甲府」、山梨市「ふるさとハローワーク」、甲府市住吉のハローワーク甲府「生活困窮者専門担当者」が、迅速に対応されます。

当法人へ直接求人を申し出される企業に対しては、必ずハローワークへ所定の求人申込をされるよう依頼し相互協力を図っています。

【事例】

* 地元観光業者へのスムーズな紹介と就業

笛吹市石和町を管内にもつ「ワークプラザ甲府」では、“住み込み型求人案件”を多く獲得されていること、以前に就職した先輩情報も当法人から提供して、スムーズな就職につながっています。

* 首都圏の中堅土木会社からの求人対応

体力に自信があり、寄宿舍住まいが可能な求職者に対してはオリンピック関連建設事業を請け負い、路上生活者等困窮者に理解のある土木会社C社の情報を提供し検討してもらいます。応募意思が固まったところでC社には、「広域求人」としてハローワーク甲府へ求人票提出を依頼し受付され次第、当法人内で面接し、採用内定ができれば赴任への身の回り品調達等行っています。

複合的な連携事例


Sさん(45歳男性)は救護施設を飛び出して路上生活を送っていましたが、炊出しに来て当法人とつながりました。

当法人の支援で生活保護を申請しアパート暮らしを始めましたが、アルコール依存傾向があり生活費を飲んでしまう恐れがあったので、市の社会福祉協議会に通帳を預け、計画的な金銭使用に協力していただきました(日常生活自立支援事業の利用)。アルコール依存症の方々の自助サークルにも相談し、定期的にミーティングに参加するようになりました。

一方、以前の交通事故や建築現場での落下事故での受傷が原因と思われる言動が気になったので、脳神経専門病院の受診を支援しました。その結果、高次脳機能障害の診断が出て障害者認定申請に道が開けました。

その他の連携団体

前述の団体以外にも多くの団体や企業と連携して生活困窮者の支援を行っています。

団体等	連携内容
フードバンク山梨 	当法人設立当時の連携団体です。炊出しの食材提供や生活困窮者への食糧支援に協力いただいています。 生活困窮者自立支援制度がスタートしてからは、地方自治体に対して連携して事業提案をしています。
連携する不動産会社	路上生活者の自立支援にご協力をいただいています。アパート等新しい住居を探す際の物件情報提供の他、入居契約時に連帯保証人がいない場合の対応も行っていただいています。
障害者基幹相談支援センター	障害者手帳の有無にかかわらず、障害のある方の困りごとの相談に応じていただいています。障害者福祉制度の利用につなげていただくこともあります。
山梨ユニオン	個人加盟の労働組合です。賃金未払いや不当解雇等の労働問題の相談に応じています。
スペースふう	リユース食器でゴミ削減に取り組んでいるエコ団体です。毎週の炊出しの食器を無償で提供していただいています。

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可)
カトリック甲府教会にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
- ・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。



2018 年 3 月 15 日の炊出しメニュー
親子丼、ちくわと大根の煮物、
ほうれん草炒め、みそ汁

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願いいたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。